

- 育成プログラム「災害と社会変動—安全・安心に生きるために」講演，2013年11月，東北大学)
- ・中村潔「バリ社会研究の現状と課題」(東北大学 長谷部弘科研 2013年8月11日新潟駅前「駅前オフィス」ミーティングルーム)
 - ・中村潔「エージェンシーの定立と作用」に関わる研究計画(京都大学 杉島敬志「エージェンシーの定立と作用」研究会2014年1月10日国立民族学博物館4階第1演習室)

文化史・文化理論の再構築 2013年度活動

研究代表者 三 浦 淳

1. プロジェクト内容概略

「特にこういう方面を重点的にやろう」と決めてかかるのではなく、別の言い方をするなら拘束性を前面に押し出すのではなく、参加者の自主的な研究を軸として進めているプロジェクトですが、2013年度もそうした自主性が対象地域や時代、さらにはジャンルの多様性に結びつき、豊穡な結果を生み出しているように思われます。

ジャンルでは、まず映画・絵画・写真といった視覚重視の分野での論文や口頭発表が目につきますが、その時代や地域はさまざまであり、海外の産物を取り上げたものもある一方で、新潟という地域性を重視した研究でも着実な成果が積み重ねられています。また文学と視覚の連関に迫った業績には、既存の枠組に縛られないという、本プロジェクトの志向性が明確に表れていると言えます。

さらにはフランス百科全書派、ロシア演劇理論、ドストエフスキー、18-20世紀ドイツ文学など、広い意味での文学や思想に関わる問題が追究されており、過去の文化的遺産を新たな目で捉え直した上で未来に進んでいこうとする

本プロジェクトの目的は十分に達成されつつあるのではないのでしょうか。

2. 参加メンバー

三浦 淳 (代表)
石田 美紀
猪俣 賢司
甲斐 義明
齋藤 陽一
佐々木 充
番場 俊
逸見 龍生

3. プロジェクトの進捗状況

■著書

□単著

○三浦淳

・『夢のようにはかない女の肖像—ドイツ文学の中の女たち—』, 同学社,
2013年10月

□共著

○石田美紀

・『地域の肖像—新潟県観光映画と中俣正義』, 原田健一, 石井仁志編『懐かし
さは未来とともにやってくる—地域映像アーカイブの理論と実際』, 学文
社, 2013年9月, 88-109頁

・『娯楽と教育, そして絵—挿絵画家・高島華宵の場合』, 栗原隆編『感性学
触れ合う心・感じる身体』, 東北大学出版会, 2014年3月, 257-274頁

○番場俊

・『小説と顔のコミュニケーション』, 栗原隆編『感性学—触れ合う心・感じる
身体』, 東北大学出版会, 2014年3月, 67-84頁

■論文

○石田美紀

- ・「田中絹代と小津映画」, 『ユリイカ』第45巻, 第15号, 88-97頁
- ・「絵と読者, そして写真」, 『ユリイカ』第45巻, 第16号, 157-165頁

○甲斐義明

- ・Yoshiaki Kai, Distinctiveness and Universality: Reconsidering New Japanese Photography, *Trans Asia Photography Review*(online journal), Volume 3, Issue 2, Spring 2013.
- ・「手と動物—中俣正義アーカイブを展示する」, 『にいがた 地域映像アーカイブ』No.4 (新潟大学人文学部), 2013年11月, 5-7頁

○齋藤陽一

- ・「日本におけるスタニスラフスキー・システム1」, 新潟大学人文学部研究紀要『人文科学研究』, 第134輯, 2014年3月, 23-39頁

○逸見龍生

- ・「形而上学の時間と哲学の時間—『百科全書』デイドロ執筆項目「靈魂」の「生成論的解釈学の試み」, 『日仏哲学研究』第18号, 2013年9月, 16-30頁, 招待論文
- ・「時間・知識・経験—初期デイドロ思想の形成におけるベーコン主義医学史の位置—」, 『思想』(岩波書店)2013年12月号, 158-186頁, 招待論文
- ・Tatsuo HEMMI, Alexandre Guilbaud et al. : « Entrer dans la forteresse » : pour une édition numérique collaborative et critique de l'Encyclopédie(projet ENCCRE), *Recherches sur Diderot et l'Encyclopédie*, 43, 2013, pp. 225-264.(共著, 査読有り)

○三浦淳

- ・「シュトルムの小説と大学(その1)—『グリースフース年代記』について」, 新潟大学人文学部研究紀要『人文科学研究』, 第133輯, 2013年10月, Y43~68頁

■講演, 学会発表等

○石田美紀

- ・Minori Ishida, "The Lack of Media: the Invisible Domain after 3.11", Society For Cinema and Media Studies, 20th March, 2014.

○猪俣賢司

- ・「映画に現れた「核」—「ゴジラ」の時代と私たち, にいがた市民大学(平成25年度)「新たな「核の時代」を生きるために—「3・11」後新潟から考える—」, 6月17日, 新潟市生涯学習センター

○甲斐義明

- ・北村順生, 野崎孝則, 神田より子, 武村知子, 榎本千賀子, 甲斐義明, 原田健一, パネルディスカッション「『懐かしさは未来とともにやってくる〜地域映像アーカイブの理論と実際』出版記念・シンポジウム 地域, 映像アーカイブ, その親密性とは何か」, 2013年11月30日, 新潟日報メディアシップ
- ・石井仁志, 松沢寿重, 甲斐義明(聞き手), ギャラリートーク「ストリートスナップをめぐる」, 2013年12月7日, 砂丘館

○番場俊

- ・「顔の表象文化史序説—バフチンとドストエフスキーから」, 愛媛大学法文学部と新潟大学人文学部との学術交流講演会(2013年12月21日, 愛媛大学)
- ・「顔の装置としての小説」, 第8回神戸大学芸術学研究会(2014年1月11日, 神戸大学)

○逸見龍生

- ・「『百科全書』の言語と政治」韓・日本十八世紀学会共同学会国際シンポジウム「知識の生産・集積・交流」2013年5月10日~13日, ソウル大学シンヤン館, 主催: 韓国十八世紀学会, 後援: ソウル大学人文学研究院, 招待講演
- ・Tatsuo Hemmi (Université de Niigata), "Diderot et histoire de la médecine, dans sa formation philosophique expérimentale : de Bacon à Daniel Le clerc", Colloque L'anthropologie matérialiste de Diderot et les sciences, 15-16 octobre 2013, Museum National d'Histoire Naturelle, amphithéâtre Rouelle. 招待講演
- ・Tatsuo Hemmi (Université de Niigata), « La formation médicale de Diderot : Daniel

Le Clerc », Manufacture de l'Encyclopédie" de la Société Diderot, organisé par Marie Leca-Tsiomis (CSLF, Paris Ouest-Nanterre) et Irène Passeron (SYRTE, CNRS), 2013年11月9日 招待講演

- ・ Tatsuo Hemmi (Université de Niigata), "Les savoirs et la temporalité chez Diderot", Colloque international Diderot et le temps, 14-15 novembre 2013, Université Aix-en-Provence, 招待講演
- ・ Tatsuo Hemmi (Université de Niigata), "Politique et Langage dans l'Encyclopédie", 2013年12月13日, ソウル大学, 招待学術セミナー
- ・ Tatsuo Hemmi (Université de Niigata), « Temporalité et savoirs chez Diderot - essai d'une herméneutique génétique de l'Encyclopédie », Ecriture passionnée, Le colloque annuel d'hiver 2013 Société coréenne de langue et littérature françaises (SCLLF), « Ecriture dans son temps - à l'occasion du tricentenaire de la naissance de Diderot (1713) et du centenaire de la naissance de Camus (1913) », Samedi 14 décembre 2013, Université Hankuk des études étrangères, Séoul, 招待講演
- ・ 「〈意志〉論の神学・政治論的布置—『百科全書』デイドロ執筆項目「政治的権威」におけるパウロ解釈」2014年3月16日, 立教大学シンポジウム「来たるべき一般意志」, 招待講演

○三浦淳

- ・ 「新潟ドイツ映画祭」講演「『白いリボン』とミヒャエル・ハネケ」, 2013年10月19日, シネ・ウインド

■新聞・雑誌への寄稿, 解説, 企画等

○石田美紀

- ・ 解説記事「自転車泥棒」, DVD・Blu-ray『自転車泥棒』封入パンフレット, IVC

○甲斐義明

- ・ 展覧会企画「中俣正義・小林新一 写真展×2プラス」(新潟大学・駅南キャンパスときめいと, 2013年11月30日～12月16日)(木村一貫氏(新潟市歴史博物館)との共同企画)

○逸見龍生

- ・「文人たちの結社」, 『図書』(岩波書店), No. 780, 2014年2月, 2-7頁
- ・「『百科全書』の日時計—宇宙の理を希求する」, INAXライブミュージアム編『手のひらの太陽—「時を知る, 一を知る, 姿を残す」道具—」, 2014年4月, 30-32頁
- ・逸見龍生・王寺賢太・田口卓臣, 鼎談「今, デイドロを読むために」, 『思想』(岩波書店), 2013年12月号, 6-48頁

○三浦淳

- ・「シュトルムと私」, 『日本シュトルム協会会報』, 第60号, 32-33頁, 2013年5月
- ・「新潟ドイツ映画祭に寄せて—多様性の一端触れて」, 『新潟日報』, 2013年10月9日, 第18面
- ・「映画『ハンナ・アーレント』上映に寄せて—ユダヤ人の多様な思想」, 『新潟日報』, 2014年2月13日, 第10面
- ・「甲信越地区研究会概要(新潟)」, 日本言語政策学会『言語政策』, 第10号, 2014年3月, 200頁

世界の視点をめぐる思想史的研究

研究代表者 栗原 隆

人文学部プロジェクトとしての、「世界の視点をめぐる思想史的研究」は、思想史における隠れた水脈を掘り起こすべく、知られてこなかった重要な文献を翻訳して紹介する『知のトポス』の刊行を中心に、人文社会・教育科学系附置「間主観的感性論研究推進センター」における研究活動とも相俟って、公開研究会を開催することを軸に展開されている。